

総務産業常任委員会会議録

- 1 日 時 令和4年10月5日(水)
8時54分開会 10時53分閉会
- 2 会議場所 役場地下 大会議室
- 3 出席議員 委員長：鈴木孝寿 副委員長：佐藤幸一
委 員：西山輝和、中島里司、奥秋康子、加来良明
議 長：桜井崇裕
- 4 事務局 事務局長：田本尚彦、次長兼総務係長：川口二郎
5. 説明員 山田建設課長、小笠原建設課長補佐、本間土木係長、野口建築係長
野々村水道課長、田村施設係主事
- 6 議 件

(1) 所管事務調査について

(2) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

(1) 所管事務調査について

委員長（鈴木孝寿）：本日、総務産業常任委員会の所管事務調査にあたり、建設課、水道課のご同席をいただいたことに感謝申し上げます。公共工事の関係、町発注工事の進捗状況を今回見るということで、皆さんには寒い中、外に行くことになるがよろしく願います。出席されている方の紹介をお願いします。

(建設課、水道課自己紹介)

委員長：建設課から現在の工事の進捗、今どのような工事が全体的にあるかということをお願い。

山田建設課長：（別紙資料に基づき説明）

委員長：続いて水道課をお願いします。

野々村水道課長：（別紙資料に基づき説明）

委員長：昨今の資材高騰の関係で、入札後に何か対策、もしくは実情の変化があれば。例えば価格が上がってしまい、役場として何か対応してきたとかあれば。

小笠原建設課長補佐：建設課所管の工事においては、まず発注時における最新の単価を使用して発注して入札している。約款においてもスライド条項があるので、もし相談があれば基準に基づいて変更等は行うが、今年に関してはそのような相談はない状況なので、今のところはその適応はない。

野々村水道課長：水道課についても同じような状態である。業者の方から相談があれば設計変更等で対応するが、今のところそのような話はいただいていない。

委員長：半導体不足の関係とか、資材の納入、当初は入る予定が遅れて入ってこないというのも多々あるというふうに聞いているが、その辺の納期関係で苦労されているという点も今のところはないということか。

小笠原建設課長補佐：半導体不足で入ってこない物はないが、電気設備に関して一部、コロナの影響で入っていないものがあり、それについては工期を2か月延長した事例はある。

野々村水道課長：水道課発注の部分でいくと、資料の下水道工事の3番目、処理施設電気設備工事については、今現在、半導体と納期の部分で確認作業をしている途中である。今後その辺について出てくる可能性があるかと思っているが、工期は3月10日までということになっているので、こちらについては業者と相談しながら進めていくと

ころである。

委員長：これから現場に出るが、その前に皆さんから今聞いておきたいことがあれば願います。

中島委員：単価アップが色々な面が出てきて、業者から単価アップの関係で出てきた場合、出てきてから検討するわけで、内部として総体的な事業の何パーセントとか、単体の単価の何パーセントとか、一定のルール化というのも内部で、別々ではなくて関係者と一定の協議しておく必要があるのではないかと思うが、意見として聞いていただければ。1件1件来たら内部で協議するのではなくて、使用した単品の単価に対して設計上からでもいいし、落札したら実施設計書はあげさせているのか。札で決めたらそれ以上のもの、中身は求めているのか。

山田建設課長：入札書投函とともに工事費内訳書をつけていただいている。

委員長：そこに出ている単価とかに対して何パーセントとか、ある程度目安を内部で調整しておく必要があるのではないかと。という事はその都度業者から相談があった時に一回一回伺ってから決めるのではなくて、一定の数字になれば一応話は聞いてみようという程度のものを用意しておいてもいいのではないか。バラバラにならないで必ず内部で調整した数字。平等に扱うということになれば、そういう押さえをしなければならぬのではと思う。今答えはいらぬので、そういう意見があるということ踏まえておいてもらいたいと思う。

委員長：町発注工事というのが、特に今年なんかも良く議会で言われていたように、建設課、水道課それぞれの課の業者との関わりの中で、全体として業者からもう少し仕事ないのかとか、発注してくれないかという相談、声は届いているかいらないか。町内の発注業者においても厳しいという反面、人がいなくて仕事ができないというような方向が多かったというのも、ただ業者によってはなんとも言えないところはあるけれども。発注工事全体としてはもう少し出してほしいというような声があるのかなのか、もしくは今仕事こられても満タンというところが多いのか、雰囲気結構なのでなにかあれば。

山田建設課長：今、直接そういう声は聞いていないが、例年よりは多いのではないかと感じている。建築系においては本数的には多いかなと感じている。設計とか検定とかに関しても苦慮している部分である。

野々村水道課長：特に水道工事について多い少ないというお話は今のところない。私を感じている中では以前より水道工事は減っているように本数的には感じている。

委員長：例えば永井建設さんとかは2本一辺に抱えていたりして大変だろうと。法的には問題ないだろうけれども、役場職員の管理する側の数も大変だという部分からいくと、品質管理というの厳しくなってくるのだろうと思うが、現業部門においてはきついという話も出たけれども人的な部分については現状どうなのか。過去に比べたら少なくすっきりしすぎて大変なんですというのがあれば。

山田建設課長：建築工事が2工区若干かぶっているという話はあるが、法的には問題ない。
実際の施行時期、現場代理人がいなければならない時期というのがそれぞれ分かれているので、その辺の品質管理については問題ないと思う。職員の負担については工事の複雑化、建築については担当係長一人だけなので、本数こなすというのも苦慮しているところである。

委員長：皆さんから何かないか。

(なしとの声あり)

委員長：それではこれより現場に行きたいと思う。

【現場視察 9：21～10：41】

- ・清水9丁目道路排水管更新工事
- ・西都団地外構工事他

委員長：それでは再開する。上下水道の工事1か所と建築工事、土木工事合計5か所を見させていただいた。それぞれ各業者の方々ともお話ししていたようだし、全体を通じての説明は特に設けなかったが、今回の調査を通じて何か指摘しておきたい、もしくは確認しておきたいという事があればお願いしたいがいかがか。私の方から言っていたのが、トイレの問題と現場事務所の問題。本来置かなければならないのだけれども、その辺についてはちょっと水道課が説明していたが、仮設の状態はまだ置かないこともあると建設課が言っていたので、最終的には確認をしていきたいと思う。トイレは普通現場には置くと思うので、共通仮設費の中にも確か入っているはずなので、その辺は公共工事の本来の意味合いの中から、もう一度確認して報告の中に入れるか入れないかも含めて考えていきたいと思う。

加来委員：工事を進めるうえで管理の責任としては、それぞれの担当課、現場があるので、そういうところはしっかり指導していくということは、安全に工事を進めていただくためには指摘しておくべき点だと思う。工事の方については資材費が高騰している中で、企業努力という業者さんからのお話もあったが、契約内容にも色々あると思うけれども、企業努力で済まない場合も当然出てくるような状況があれば、町としても積極的に業者の話を聞いて、業者にあまり負担をかけないように、いい工事をしていただくうえでも大事ではないかと思う。現場の方では資材が今の感覚では過去の1.6倍。経費など総額入れれば2倍程度の資材の高騰に感じるということであったので、相当大変だと思う。そういうところは柔軟に対応していくべきだと感じた。

中島委員：契約時点で建築の場合は資材を全部注文しているので、現時点では60パーセントほど上がっているようであるが、負担をかけないというのは賛成であるが、文書表現としてどう表現したらいいのか。値上げを積極的にということや、私は業者に負担させることも基本的には間違っていると思う。だけど、表現によっては積極的に出さないということに通じる部分があるので、文書表現としてどういうふうにし

たらいいのかという思いがした。ただ、建築の場合は工事に対しては現状では大きな負担がないというのは、企業努力とは言っていたがほとんど契約日、値上げする前にほとんどの物が発注されていたと思われるので、その辺をどういうふうに表現するか委員長にお願いしておきたいと思う。

加来委員：柔軟に対応した方がいいというのは、業者に極端な負担をかけないような、いい仕事をしていただくということで、資材の発注等は中島委員が言われたとおりで、先に発注して予定価格の中で収めようと思う。色々な状況の中で変わっていった他の経費、電気代、維持費がかかっていったりすることもあるので、極端に出るようであれば対応してあげた方がいいということで、中島委員の言う通りだと思う。

委員長：各課において経済情勢というのは敏感に、常に確認しながらやってほしいということと、それがすぐにお金につながるかというわけではないが、現実的に何かが発生した時には柔軟に対応できるような形もあってほしいなというところかと思う。契約ありきの工事だから、その部分の差し障りのないような表現をしていきたいと思う。前段であったけれども、数字的にはそんなに大きくはないだろうが、契約本数、工事本数、例えば建築は今一人しかいないという中で、結構大変だろうというのは容易に想像できた。その部分については土木もそうだし建築物もそうであるが、その辺のところは人員をふやせというのは浅はかであるが、ただ、少し対応できるような状況も今後必要であると、表現は難しいけれども、なんでもかんでも人を増やせというのも変な話なので、そこは安全安心に町民が暮らせるような状況であることを望むというような、表現になろうかと思う。

加来委員：基本的には総合計画に沿って工事計画を立てて、やっていっているということであるが、来年以降は老朽化施設の修繕、改修工事が多くなるという話を現場で聞いたので、委員長が言うように工事の質を維持していくには技術者は必要だと思うので、今後について技術者をそれぞれ必要であれば、人数増やせばいいという事ではないと言うが、必要な人材はきちんと配置することが職場の機能も発揮できることであるので、無理して押さえることではない部分でもあると思うので、適材適所の人材配置が組織の中でも工夫してもらいたいと、そして工事の質を管理してもらいたいと思う。

委員長：今の方向性で表現をしていきたいと思う。それでは今回のまとめについては私の方に一任させていただいてよろしいか。

(はいとの声あり)

委員長：要点、要点でまとめさせていただきたいと思う。それでは、以上をもって総務産業常任委員会を終了する。

【閉会 10:53】